

■映画「ヘイトスピーチ」上映会&トークショー



2016年06月12日久慈市中央公民館にて、平和環境久慈地区センター他の共催により、問題性を認識し、差別のない、基本的人権が尊重される社会を目指すことを目的とし、「ヘイトスピーチ上映会&トークショー」を開催した。

ヘイトスピーチに向けた対策法が5月24日に成立したものの、川崎市で「ヘイトスピーチ」のデモを継続的に計画実施する団体もあり、今回の上映会は最も適した時機となった。



佐々木監督トークショー



鑑賞者からの質問



鑑賞者からの質問

[佐々木航弥](#)（ドキュメンタリー映画「ヘイトスピーチ」監督）1992年生まれ。岩手県宮古市出身。高校卒業後、大阪芸術大学映像学科に入学。3年次からドキュメンタリーコースに所属。2014年に佐々木さんは同級生の平木篤さんと、大阪の御堂筋や鶴橋で「在日韓国・朝鮮人は本国に帰れ」「在日を殺せ」と拡声機で流す団体のデモ行進を繰り返し取材した。ヘイトスピーチに抗議する人や「仲良くしようぜパレード」にも密着。半年かけて約100時間分の映像を撮り、卒業作品にまとめた。この映画は、全国各地で自主上映され、制作者の思いは着実に広がっている。



私は東京で、在日の方々に対するヘイトスピーチを目の当たりにしました。平気で誰かを排除できる人がすぐそこに存在していることに驚き、底知れぬ恐怖を感じました。人種・民族・宗教・性別・性的志向…様々なバックグラウンドを持つ人がこの日本で共存しています。誰かの生きづらさは、自分自身の生きづらさにつながります。今国会で、ヘイトスピーチ解消対策法が成立する見通しですが、法案にはまだまだ改善すべき点があります。私たちは「選挙」という方法で、世の中をいくらでもいい方向に導くことができます。18歳から投票できるようになりました。

久慈からでも、日本を変えられます。

実行委員会共同代表 佐々木道子（大学生）